東京歯科大學同窓会報

東京都千代田區神田
三崎町一ノ七
発行所
東京歯科大学同窓会
編輯兼発行人 高木圭二郎
電話九段(33)一〇〇〇

創刊の辭

悲しくいたましい十年の過去は、今尚、我々の胸裡に堪え難き痛苦と犠牲の傷痕を殘している。しかも次ぎから次ぎと襲いかゝる災厄に、殆んど茫然自失せんとする場合さえもあつた。涙を以て云い、涙を以て聞く會話は數知れず我が同窓の間にも、とりかわされているのである。

お互に慰め、お互に勵し、お互に近狀を知るべき機關がなかつたのは、誠に淋しいことであつた。この會報によつて、今、それが満されようとしている。同窓諸君が之を十分に利用される様にと希望する。

我等は生きている。生きて新日本建設の途上に立つている。昨日までの苦勞を一擲して雄々しく前進しようではないか。

昭和二十二年十月

編輯委員誌

謝辭

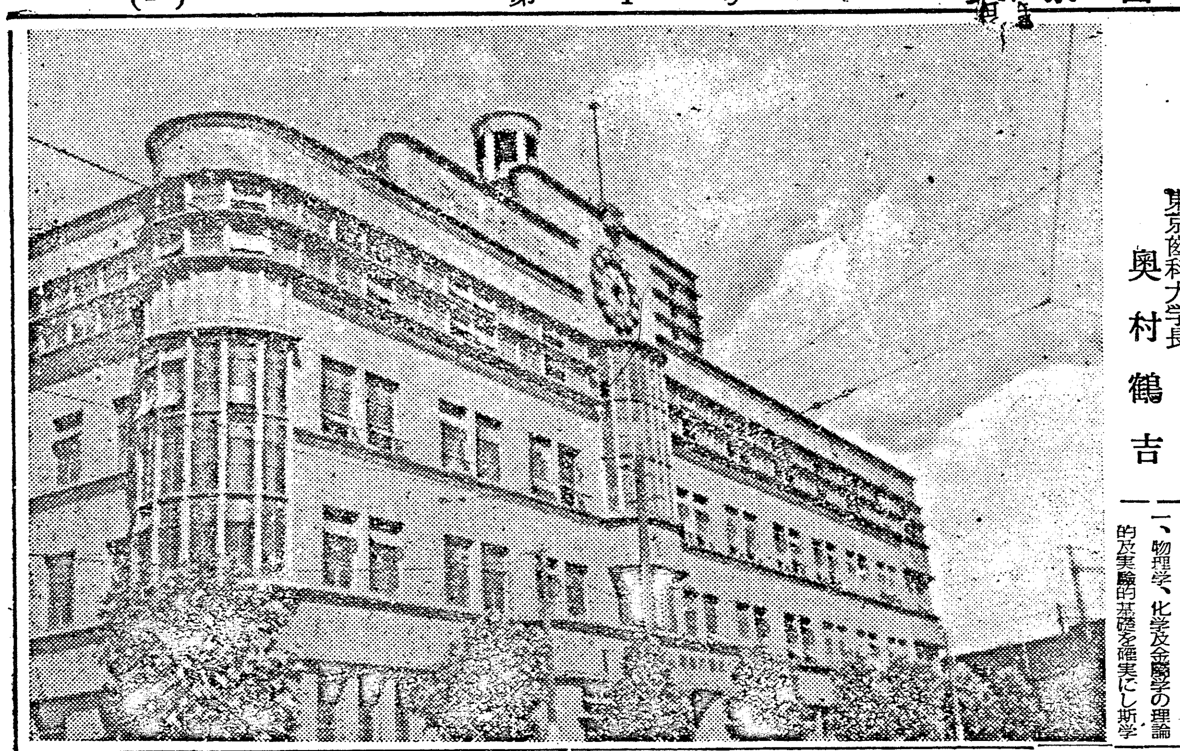
昨年七月十九日、東京歯科醫学専門学校多年の希望を達して、大学昇格の認可を受け爾來今日まであらゆる障害を排して内容整備に力を盡して參りました。其間、校友同窓諸君より一方ならぬ御援助を受け、大学建設の資金も追々に集つて參り、當事者は更に一層の勇を鼓して努力の限りを盡すべき覺悟であります。前途の長いことゝ、困難の多いことゝは十分豫期せられますが、校友同窓諸君の後援を頼みに、目的成就を念願しております。

謹んで御禮を申述べ、一層の御協力を希望致します。

昭和二十二年十月

東京歯科大学長

奥村鶴吉



同窓六千待望の

東京歯科大學設立す

昨年七月十九日、わが同窓多年の宿望であつた東京歯科醫学専門学校の大学昇格が他校に魁けて実現し、日本の歯科醫学の飛躍的進歩が約束されるに至り、斯学のため慶賀の至りに堪えない

爾來、同窓各位並に母校教職員の獻身的努力により着々内容が整備されつゝある、豫科は市川に新校舎が新設され、紅顔の若人が希望に滿ちて研学に勵んでいる

尚昨年十一月、大学創設記念祝典が三崎町の母校講堂に於て盛大に催された

次に東京歯科大学設立の方針を掲げる

建學の目的

本学設立の趣旨は、第一に斯学並に關係諸学科の我國最高位研究機關として、総ての舊套を脱した高能率施設たらむことを期し第二に國民総体の健康福祉の増進に寄與する指導力ある人物の育成を期するにある。而して之れが目的達成のために執らむとする方針大概次の如し。

一、戦後社会狀勢の變化と正當醫療普及の要望とに対へ、あらゆる沈滞を一掃して革新的積極的歯科醫道の樹立を期す。

一、語学の実際的能力を涵養し、先進國歯科醫学及関係学術の攝取並彼我智識の交換に遺漏なからしめむことを期す。

一、物理学、化学及金屬学の理論的及実驗的基礎を確実にし斯学の行路の明徴を圖り、併せて歯科器械及技術の根本的改革を期す。

一、極力基礎諸学科の研究を推進すると共に其成果を臨牀上に緊切に結合し、双方全一体として向上を期す。

一、附屬病院の擴充と併せて綜合病院を附設し以て診療の强化を圖り、歯口疾患と他臟器疾患との関聯を明にし生物学系諸問題の解決と相俟つて治療方法の躍進的発展を期す。

一、衛生諸学科に就ては新構想を以て其研鑽に努力し、漸次歯口疾患の根絶により幼者発育の完成と成人身心の康寧を計らむことを期す。

一、臨牀の受授に関し個人的及び社会的機構と経済の調査研究機関を置き民生安定の一助たらしめむことを期す。

一、男女共学制を採り婦人にして其所能を以て社会に奉仕せむとするもの、爲め均等の機会を與ふるに努め特性の発揮を期待す

一、幹部員の登用には普く英材を世間に求め必しも或科の爲めに或人を充つるに非ずして、或人の爲めに或科を樹つるの方式を執り新鮮活潑なる学風の建設を期す。

一、常に各教室を開放し篤学者の來り学ぶを迎へ教室員は修むる所の学問技術及び経驗を攜へて一般民衆並に同学者に助成し同胞の健康福祉の爲めに力を盡して倦まざらむことを期す。

一、豫防歯科施設の実際擔当者として品性、智能並に技術共に秀でたる口腔衛生婦の養成を期す

建設の要綱

一、豫科及新制大学の「プレデンタルコース」の整備
　(イ)校舎の修理及増築
　(ロ)実習室及研究室の整備
一、学部及専門学校としての整備
　(イ)三崎町校舎の修理及増築
　(ロ)三崎町校舎の研究室、実驗室及標本室の整備
　(ハ)水道橋歯科病院の整備
　(ニ)市川校地に基礎学教室の建築及整備
　(ホ)市川綜合病院の建設
　(ヘ)圖書館の建設
一、体育厚生施設の整備
　(イ)運動場の整備
　(ロ)寄宿舎及学友会館の建設
　(ハ)「キャンパス」の整備
一、人的及経済的考慮
　(イ)人的配備の充実
　(ロ)資金充実の爲めに必要なる施設
一、綜合大学の建設
　第一案、本大学を他の綜合大学に合併すること
　第二案、既存の他の大学を本大学に合併すること
　第三案、本大学自ら他の学部を設立すること

研学の栄誉に輝く

學位受領者

同窓中、多年研究の成果として、醫学博士の学位を得られた諸君は昭和十九年以來左の通りである。深く敬意と祝意を表します。尚この他にも学位受領者があると思います。御連絡願います。

氏名	主論文題名	認可年月日	提出大学名
溝上喜久男	歯牙並に附近組織の外傷性變化に関する研究補遺	一九、二、二四	慈大
大月俊夫	腫瘍組織「フオスフアターゼ」の組織化学的研究	一九、三、一八	満大
佐藤新一	経鼻腔抗毒性免疫に関する研究	一九、三、一八	名大
赤坂東九郎	兎唇並に口蓋破裂の研究	一九、四、二	京大
富取卯太治	班狀歯の本態に関する病理組織学的研究	一九、四、一三	慶大
松井隆弘	象牙質基質殊にEbner氏層板、Andresen氏横線、Mummery氏象牙質紋理、Owen氏外形線、Richter氏球間網等に就て	一九、五、五	東大
品川顯	蛔虫の神経及び筋に関する研究	一九、七、一二	慶大
安田康輔	歯髄炎、特に慢性歯髄炎の病理組織学的研究補遺	一九、八、八	慶大
山崎浩重	縫合用絹糸及び腸線による実驗的過敏性現象の研究	一九、八、二五	慈大
松森正義	Nippostrongylusに於ける後感染抵抗の研究	一九、一一、九	慶大
坂本英次	末梢血管の脂肪沈着に就て	二〇、二、五	慶大
小森谷武	双生児に於ける顎及び歯牙の異常と疾病	二〇、二、一九	名大
武居政憲	魚類特殊筋「血合」の琥珀酸脱水素酵素含有量に就て	二〇、三、二三	名大
堀江鉦一	水酸化「カルシユウム」による根管充塡の実驗的研究	二〇、五、九	東大
藤井秀英	甲種腎鉄紋の研究	二〇、七、三	慶大
高達	殘根の所謂排膿機轉に関する病理組織的研究	二〇、一二、二七	東大
飯塚喜四郎	根管治療後に起る組織の治癒現象に就て	二〇、一二、二〇	慈大
長尾喜實	腫瘍内類脂質の消長について	二一、三、二五	慶大
木村吉太郎	日本流行性腦炎病毒の「マウス」体内に於ける分布並に腦室内攝殖に関する研究補遺特に腦下垂体及び副腎内濃に就て	二一、四、一五	慶大
中村保夫	赤痢「アミーバ」に関する研究	二一、一〇、三〇	慶大
山崎安三	各種薬品による生活歯髄切断法の実驗的研究	二二、二、二五	慈大
榎本太郎	根端切除手術の治癒機轉に関する実驗的研究	二二、三、一〇	慶大

東京歯科大學同窓會の新發足

○同窓会新会則並に新役員決る

東京歯科醫学専門学校同窓会々則は新事態に即應して、去る昭和廿一年十一月三日同窓会第五拾貳回総会に新しく東京歯科大学同窓会々則案として提出され、萬場一致を以て可決し、即日実行に移された

尚新役員は、本年五月十七日母校内に於て開かれた支部長会に於て協議の結果、出席者四十八名の総意を以て、会頭、副会頭を選任し、他は正副会頭の合議により選出すべきことに一決し、別掲の通り選任されそれぞれ就任した

次にその全文を掲げる

東京歯科大學同窓會々則

(昭和二十一年十一月改正)

第一章 総則

第一條 本会は東京歯科大学同窓会と称す

第二條 本会は歯科醫学の発達と併せて会員の向上共済並に親睦を圖るを以て目的とす

第三條 本会は事務所を東京歯科大学内に置き之を本部とす

第二章 事業

第四條 本会は別に定むる規定により総会及例会を開き講演、展覽等を行ふ

第五條 本会は会報を発行す

第六條 本会は学術の研究を奨勵する爲め左の事業を行ふ
一、会員の研究に対し補助を與ふること
一、会員の優秀なる業績に対し授賞すること
一、会員の業績を内外に発表すること
一、其他必要適切なる方法を講ずること

第七條 本会は業務上及社会上の発展向上を計る爲めに必要なる事業を行ふ

第八條 本会は支部の請求により支部の事業に協力し其發達を計る

第九條 本会は会員の共済親睦を謀る爲めに必要なる施設を行ふ

第三章 会員

第拾條 本会は高山歯科醫学院、東京歯科醫学院、東京歯科醫学専門学校、東京歯科大学及び東京歯科醫学校の卒業者出身関係者並に本会の趣旨を賛成し支部長より推薦せられたる者を以て之を組織す

第拾壹條 東京歯科醫学専門学校卒業者及び東京歯科大学卒業者は学則に據り卒業の際本会に入会する義務あるものとす

第拾貳條 会員にして氏名住所を變更したるときは支部を通じて直ちに届出べし

第拾參條 本会又は本校に対し功労特に顯著なるものは役員会の決議を經て名譽会員に推薦す

第十四條 本会々則に違背したるものは役員会の決議により戒告を加へ尚之に從はざるもの又は本会の体面を毀損する行爲ありたるものは評議員会の議決を経之を除名することあるべし

第四章 役員

第十五條 本会に左の役員を置く
会頭 一名
副会頭 二名
幹事 十二名

第十六條 役員は支部長会に於て之を選挙す役員の任期は二ケ年とす 但重任を妨げず

第十七條 会頭は本会を代表し会務を統理す副会頭は会頭を補佐し会頭事故ありたるときは之を代理す

第十八條 会頭は委員を囑託することを得

第十九條 本会に有給書記を置くことを得

第五章 評議員

第二十條 本会に評議員若干名を置き左に揭ぐる者を以て之に充つ
一、支部長或は支部長の推薦したる者
一、会頭の推薦したる者

第貳拾壹條 評議員の任期は二ケ年とす、但重任を妨げず

第六章 会議

第貳拾貳條 会議は役員会、評議員会、支部長会及び総会とす

第貳拾參條 役員会は会頭随時之を招集し会務を處理す

第貳拾四條 評議員会は会頭之を招集し重要なる会務を審議す緊急止むを得ざる場合又は評議員会の委任を受けたる場合には在京評議員会を以て評議員会に代ることを得

支部長会は臨時会頭之を招集す

第貳拾五條 総会は毎年拾壹月之を開く

総会は会頭之を招集す

会頭に於て必要を認めたる場合には臨時総会を招集することあるべし評議員会共議決を以て之を請求したる場合も亦同じ

第貳拾六條 総会に於ては左の事項を附議すべし
一、豫算及決算
一、庶務報告
一、事業報告
一、資産報告

第貳拾七條 会議の議決は出席者の過半数による

第七章 支部

第貳拾八條 道府縣及東京都各區に支部を置く

但地方の狀況により其地域内に於て数支部を置くことを得此場合には該地域内に聯合支部を置く

第貳拾九條 支部会則は支部会に於て之を定め本部に届出で其承認を経べし

第參拾條 支部には左の役員を置く
一、支部長 一名
一、支部に於て必要と認めたるもの、支部役員は支部に於て選挙し其任期は二ケ年とす、但重任を妨げず

第參拾壹條 支部の経費は支部会則の定むる所により支部に於て之を負擔す

第八章 会計

第參拾貳條 本会の経費は会費、寄附金及雑收入を以て之に充つ

第參拾參條 会員の会費は一ケ年金貳拾円とす

第參拾四條 本会に入会するものは入会の際維持費として金壹百円を納入するものとす

第參拾五條 正副会頭及名譽会員は会費を徴收せず

第參拾六條 会員にして除名せられ又は退会したる場合に於ても既納の会費は之を返還せず

第參拾七條 毎年度歳入歳出の豫算は役員会に於て之を定め総会に提出し其決議を経るを要し決算は次の総会に於て其承認を求むるを要す

第參拾八條 本会の資産は会頭之を管理す

第參拾九條 本会の会計年度は毎年十一月に始り翌年拾月末日に終る

附則

第四十條 本則は昭和貳拾壹年拾壹月參日より之を実行す

第四條に関する規定

一、例会は毎年二月及六月之を開くことあるべく但必要に應じ臨時之を開催することあるべし
一、総会に於ては宿題の報告、業績の発表及授賞、臨牀講演の開設、参考品の展観等を行ふ
一、隨時歯科醫学に関する展観会を開催す
一、例会、総会及展観会等の期日及場所は之を通知す

血脇賞規定

一、会員にして其研究業績特に優秀なるものに血脇賞を授く其研究は臨牀的方面なると基礎学的方面なるを問はず
一、本賞は賞牌及賞金又は賞牌のみとす但既に賞牌を授與したる者は賞金のみとす
一、本賞の審査は之を本校教授会に委託す
一、本賞授賞者は毎年総会に於て之を発表す
一、本賞基金を特別会計とす、本会よりの支出金並に寄附金を以て之に充て会頭之を管理す。

東京歯科大学同窓会役員

会頭 奥村鶴吉
副会頭 榎本美彦、同 若葉清
幹事 原一学、同市川鶴男、同入江義次、同大井清、同大久保信一、同加藤倉三、同鹿島俊雄、同佐々木重衛門、同鈴木録二、同高木圭二郎同村瀬正雄、同米澤和一

大学資金募集の成績に就て

思えば昨昭和廿一年二月、六百萬円の第一次目標額を目指して、教授陣、事務系統一糸も乱れぬ奮闘の甲斐もあつて、嚴寒の日、炎暑の下、講義の余暇を利用し資金募集全國行脚を試み別項の成績に達した。もつと詳しく云えば、全應募者二千八百廿五名、申込額八百〇八萬九千五百円中の拂込額が第一次目標の六百萬円に達せんとしている(事実は十五萬円不足だが)目下続々と拂込みが殺到しているから、六千の同窓の中の申込の機会を失した方々の自発的申し出でと相俟つて、本年の十一月九日の同窓会総会迄(遅くも本年末迄)に少くとも壹千萬円に達するものと見込んでいる

六百萬円を達成した事は事実であるが、その間に二年近くの歳月が流れている。物價は急速に昇騰している。現金を入手した上での今日の大学や豫科の施設であつて見れば、之で足りる訳は絶対にない。そこで今度第二次の募金目標額が母校当局から発表になつたのである。

第二次の目標額も六百萬円となつてゐる第一次の場合一人應募額一千円以上の目標であつたが(尤も罹災者、引揚者中の有志は五百円でも受付けていたが)第二次は一人三千円以上が標準となつた。斯くて最終の募金目標一億円也(?)に歩一歩近づく訳である。

昭和の初めから昭和十年迄に卒業したハリキリ幸運組が、今では一人一萬円也の應募が標準となつてゐる。之が奉加帳の面から覗いて見た世相の一端である。

應募者の数と申込額から見て、お膝元の東京が第一位である、第二位の北海道、第三位の靜岡、第四位の愛知の三者伯仲の間にある次が東京近縣であるが、千葉、埼玉、群馬、神奈川、茨城、栃木の順で三十五萬から十五萬円の間を動搖してゐる(應募者百十七名から五十二名の間である)平均一人三千円内外の應募であるが、今次の水災で第二次募金があやぶまれる地域を多く抱えている。

次で北信五縣が関東地方に次で應募額が多い、平均一人当り富山が最高で四千円、最低が長野の二千円という譯だ。富山は一人当り平均申込額では、東京、靜岡と共に最高の部類に屬し、殊の他母校愛に燃えている。

其他十萬円台のものを拾つて行くと、廣島、大阪、岡山、秋田、鳥取、福島、福岡、青森、長崎、山梨、大分、兵庫、三重の順となつている。

母校出身の教授陣擔当主任者を地方別に擧れば、北海道、新潟、富山、石川、福井は米沢、青森、群馬は松井、秋田、山形、岩手は山本、宮城、福島は近藤、栃木、佐賀、長崎は溝上、茨城、岡山、鳥取は三崎、埼玉は北村、千葉は加藤、神奈川は岩沢、靜岡、愛知、大阪、兵庫は大井、山梨は杉山、長野、高知、徳島は齋藤、京都、奈良、大分、宮崎は長尾、岐阜、滋賀、和歌山、三重は松宮、廣島、山口は木村、島根は奥山、福岡は高、熊本、鹿兒島は坪井、愛媛、香川は兵藤となつている。その中熊本、鹿兒島は光永退職の後は近藤が承けついだばかりである。又東京都の中で三多摩地區は一括して中村が擔当している。二十三區は隨時手を分けて出かけている。

大抵のところは、教授陣の出身地や縁故先を擔当しているから、大学資金に限つた譯でなく、常に同窓会や、其他母校を中心とした父兄会其他との連絡に当つていて、地方と母校との重要な楔となつて今日に及んでいる。第二次募金計劃達成の一日も早いことをのみ祈つて止まない。(米沢和一記)

大學創設資金寄附状況(昭和二十二年九月卅日調査)

區分	申込数	申込額	拂込額	未拂込額
北海道	一八五	五三三、三〇〇円	四六六、三〇〇円	六七、〇〇〇円
青森	四九	一四九、五〇〇	一一七、六〇〇	三一、九〇〇
秋田	四一	一三四、〇〇〇	七七、七〇〇	五六、三〇〇
山形	四八	八五、〇〇〇	五三、六〇〇	三一、四〇〇
岩手	二〇	七七、〇〇〇	三七、三〇〇	三九、七〇〇
宮城	三八	五〇、〇〇〇	四四、八〇〇	五、二〇〇
福島	七七	一五五、五〇〇	一一七、六〇〇	三七、九〇〇
群馬	九三	二五二、〇〇〇	二二七、〇〇〇	二五、〇〇〇
栃木	五二	一五九、五〇〇	一二〇、〇一〇	三九、四九〇
茨城	七四	一七一、五〇〇	一二八、七〇〇	四二、八〇〇
埼玉	六四	二〇八、五〇〇	一三〇、五〇〇	七八、〇〇〇
千葉	一一七	三四六、五〇〇	二五一、八〇〇	九四、七〇〇
神奈川	八六	二〇七、〇〇〇	一三三、八〇〇	七三、二〇〇
東京	三二九	一、三五五、八四五	一、一五三、三四四	二〇二、五〇一
靜岡	一三三	四八〇、〇〇〇	三九七、四〇〇	八二、六〇〇
愛知	一二八	四三三、三〇〇	二九四、七〇〇	一三八、六〇〇
山梨	四九	一七〇、〇〇〇	一一一、一〇〇	五八、九〇〇
長野	八六	一七一、二〇〇	一二六、八〇〇	四四、四〇〇
岐阜	一八	四三、〇〇〇	三一、三〇〇	一一、七〇〇
新潟	九九	二三九、五〇〇	一四四、七〇〇	九四、八〇〇
石川	四一	一四九、〇〇〇	六一、八〇〇	八七、二〇〇
富山	五四	二〇九、五〇〇	八六、一〇〇	一二三、四〇〇
福井	二八	一〇一、〇〇〇	四七、〇〇〇	五四、〇〇〇
大阪	五六	一三七、五〇〇	[illegible]	[illegible]
京都	四三	九五、三〇〇	[illegible]	[illegible]
兵庫	四八	一二五、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
滋賀	三三	五三、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
和歌山	二二	九七、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
三重	五三	一〇三、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
奈良	二二	一三三、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
岡山	七九	一三三、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
廣島	四八	一四三、五〇〇	[illegible]	[illegible]
山口	五四	九〇、八〇〇	[illegible]	[illegible]
鳥取	三四	一三〇、一〇〇	[illegible]	[illegible]
島根	三六	四二、六〇〇	[illegible]	[illegible]
愛媛	二〇	六六、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
香川	一六	六〇、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
高知	九	三〇、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
徳島	七	九、五〇〇	[illegible]	[illegible]
福岡	八五	一五五、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
大分	四七	一二六、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
佐賀	一三	七九、五〇〇	[illegible]	[illegible]
熊本	四四	五七、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
長崎	六三	一四〇、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
宮崎	二〇	三〇、〇〇〇	[illegible]	[illegible]
鹿兒島	二七	七七、五〇〇	[illegible]	[illegible]
合計	二、八二五	八、〇八九、五四五	五、八五四、九五三	二、二三四、五九二

大學創設資金寄附金状況

(昭和二十二年九月卅日現在)

一金八、〇八九、五四五圓 申込額 人員二、八二五人
一金五、八五四、九五三圓 拂込額
一金二、二三四、五九二圓 未拂込額

東京歯科大学創設資金特別會計 收支計算報告

(自昭和二十一年二月 至同 二十二年九月 二十ケ月)

收入
一金六、八七二、三六六円七七銭也
内譯
金五、八五四、九五三・〇〇 同窓、校友、有志等寄附金二、八二五人
金一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇 借入金(三菱銀行本店)
金　一七、四一三・七七 雑收入(銀行預金利子等)

支出
一金四、五五六、三九〇円三一銭也
内譯
金九九二、六四五・一四 市川校舎 買收費
金五七三、四一八・一〇 豫科校舎 改造費
金一九六、三五六・二四 市川病院 改造費
金一五四、二〇五・〇〇 学生食堂 建築費
金五五七、六七二・七〇 三崎町校舎復舊費
金一、二〇五、九三五・〇〇 同上各教室及病院設備費
金四八五、九〇六・三七 豫科設備費
金　八三、六九九・八〇 市川病院設備費
金一五四、五五一・五七 資金募集費
金五三、〇二一・四〇 大学設立記念会繰入
金四八、九七八・九九 雑費
金五〇〇、〇〇〇・〇〇 借入金償還金

差引
一金二、三一五、九七六円四六銭也 現在高
内譯
金九二二、五五六・六五 帝國銀行東京支店第二封鎖預金目下解除申請中
金　五一、二八三・四九 帝國銀行第一封鎖預金
金六〇三、八二六・六三 帝國銀行 自由預金
金一一八、三六〇・六五 三菱銀行本店第一封鎖預金
金四三六、七四九・〇六 三菱銀行 自由預金
金三四、一四八・四〇 三菱銀行 自由当座預金
金一二、〇〇〇・〇〇 振替貯金 第一封鎖
金一六、一〇〇・〇〇 振替貯金 自由預金
金二六、七三一・〇〇 有價證券 第一封鎖
金　九、〇〇〇・〇〇 現金
金一五、五〇〇・〇〇 地方銀行宛送金小切手取立依賴中
金六九、七二〇・五八 假支出金(設備費及資金募集費)

因に目下着手中の建設工事は、豫科校舎実驗室の改造及設備並三崎町校舎内各教室及病院診療室(ユニット等)の設備等豫算約三百五十萬円である

東歯、運動會開催

—十一月三日午前九時より—

來る十一月三日、市川運動場に於て、東京歯科醫学専門学校並に東京歯科大学豫科主催の運動会を開催致します 奮つて御參加願います

東歯同窓會員章及び門標

本会々員を標榜するため「東京歯科大学同窓会員」の門標(アルミニウム)と、バツチ(舊東京歯科醫学士会制定のものと同型)を調製、実施頒布することゝなり目下発注製作中である、近く各支部宛に見本を送附する

希望者は直接母校同窓会宛に申込まれたい、價格は門標五〇円、バツチ八〇円、合計一三〇円(送料を含む)

昭和二十三年 春の生徒募集

明年三月には、専門学校第一学年及大学豫科第一学年各百貳拾名を募集する。舊制中学校又は高等女学校卒業生は入学の資格がある但し豫科第一学年には、中学又は高女第四学年終了者でも受驗出來る。詳細は十二月又は一月に発表される豫定である。

専門学校の生徒募集は明年だけで、其後はない。

明年、新制高等学校がはじまれば、明後年三月其卒業生が出て、「プレデンタルコース」に入り、其二ケ年を終了してから歯科本科に入学するのである。

天籟抄

第一回

鬼文と呼ばれた村井文三の家は、この雜木山の下にある周圍一里ばかりの大池の中の片隅につき出た半島のやうなもの、上に建つてゐた。近頃文三の好みで建てたこの家は、左ながら浜邊に引きあげられた船のやうに、池の岸へおちかゝるやうに立つてゐた。成るべく人目に立たぬやうにと、総平家の低いコロニアル風のコツテージ作りにして、しかもそれが大方大木の茂みに隱されてゐた。格好が細長くて、汽船のポートホールのやうな小窓が上の方に列んでゐるところは、どこか船に似た趣があるとて、村の人々はこれをあざけつて、鬼文のちやんころ船などと稱へてゐた。

○

帝國大学教授法学博士村井文三も、この村では一鬼文たるに過ぎなかつた。着流しのまゝで手持ぶさたに古い百姓家の軒先に立つた姿は、講壇に立つては最新の刑法学者として、若い学生から、ほとんど崇拝に近いほどの尊信を博してゐる、その同じ人とも覺えなかつた。こんなところへ一人で來たのは、われながら自ら己を卑しうするものであつたと、文三は悔いた。

「村井」と名乘つても、恐れてか、さげすんでか、そこにゐた十人ばかりの人々は、たれ一人相手に出ようとしなかつた。互に何やらぼそぼそといひ合つてゐるきりで、先刻門口でだれかと話し合つてる姿をたしかに見とどけておいたお見が、いつの間にか用たしに行つたといふのも、受け取れぬ話であるが、それでも兎に角姿は見せなかつた。

○

文三の先々代といふは、越後の北蒲原のある寒村の水飲百姓の三男に生れた。幼い時から勝氣の男で、一人の兄と喧嘩ばかりしてゐたが、十六の時何人にも告げずにふらりと家を飛びだした。

かせいでは金を作り、金を作つては歩きだし、短いのでは一日二日、長い時は半年も小一年も一つところにとゞまり、急ぎはせぬが休みもせず、江戸の方に江戸の方にと、少しづゝ近づいて行つた。その間には、思はぬ人の知遇を得たり、思はぬところで可なりな誘惑にあたりしたこともあつたが、彼はあくまでも、江戸に出ようといふ最初の一念を飜さなかつた。

ぶらりぶらりとやつてゆくうちに十六の春越後を出た文三は、十九の春になつて、始めてやつと江戸近くのこの池園村へたどりついた。その頃にはもう余り見苦しからぬ身なりもしてゐたし、木賃ではあるが、兎に角宿屋に泊ることも出來てゐた。ところが、江戸近くなつて、いよいよいま一日の旅路でさしも長い間志してゐた思も果せると思つた氣のゆるみか、それとも丸三年越し、それこそ野に臥し山に寝んばかりにして苦労を重ねて來た身の疲れか、いづれかは知らぬが、彼はこゝに着いたその夜から、大熱を発して頭をあげることが出來なくなつてしまつた。

○

文三が村井家の人となつて後の金貸振と來ては、正に女房に輪をかけたほどの手きびしさであつた。似た者夫婦の二人は、世間から何といはれようが、たゞ金をためることに、有る限りの力を傾けて、一切他を顧みなかつた。

何百丁歩といふ田畑山林を遺して、文三夫婦は死んだ。

○

これほどに爲事に勉めても、村人の心は解けなかつた。文三が海外から歸つた當時にうけた反感はいつまでも人の頭に殘つてゐた。

文三のする仕事とさへいへば、必ずけちをつけ、必ず惡名をつけ必ず冷かしの種にした。文三が歸朝早々の元氣で、うつかり節を垂る、氣か何かで、所得税の申告に所得の一項も殘らず根こそぎ届け出たら、先代の何十倍といふ額になつた。先代が今まで隱し立てしてゐたのがけしからぬと罵る者と同時に、文三が自分だけいゝ子にならうとして他人にあてつけをやるものだと罵る者とが、一所に出た。

○

文三は委細かまはず話をつゞけた

『細かいことはいづれ改めて申しあげますが、今大体のところを申すと、私の所有いたしまする地所は、水田が約百二十町歩、畑が五十町足らず、山林が五百余町歩であります。この地所の收益で、私は大学にも入り、外國にも留学させていたゞきまして、今日獨立の生計を營むようになつたのでありますから、いはゞ私に取つて使ひ古しの地所とでも申しませうか、使つた後のかすとでも申しませうか、兎に角私にはもう用のない土地と存じまして、これをそつくり当村の財産に寄附いたさうと考へつきました』

○

村井文三が一思ひにその所有の田畑山林全部を投げだした一事は單純な村の人々を驚喜せしむるに余りあつた。さしも永い間村人の頭にこびりついていた鬼文という考も、霜の解けゆくように和げられて行くのを覺えた。村中寄るとさはると、このうはさならざるはなかつた。中にも氣の早いのは、この際一大祝賀会を催して、村の青年で村芝居でも催さうではないかと、いひだす者さへあつた。

○

それほど一同は浮かれ立つていた

逃げも逃げたり、大体和尚は全く自分でいつていた通り「徹底的」に京都まで逃げた

さしも全村を挙げて大騒ぎをした池園村のうるさき人々を後にして彼は翌朝早くぶらりと京都停車場に降りた。着のみ着のまゝで手さげ一つ持つていなかつた。それから間もなく、彼はもうけろりとして自坊の隱寮で侍者のさゝぐるお茶をのんでいた

『えゝ天氣ぢやは』

庭には梅の花がさき殘つて、のどかな日ざしが南天の実にあたつていた

×

同窓諸君の中には御記憶の方もあろうと思ひますが、昭和十五年十一月二日、学校の創立五十年祝賀会の席上、杉村楚人冠さんが次の様な告白をされた。「主人公の村井文三其の人こそ血脇先生をモデルにしたと云つては何であるが先生にヒントを得たのであると云う事を今夜玆に初めて告白します、何で友人をモデルに使つたかと云はれるかも知れませんが全部のものに神の如く敬せられながら一部には誤解を受けている、之に義憤を感じて弁明を試みたのである、」前掲の断片によつて、此「うるさき人々」という小説のリンカクをホウフツし得るかも知れないがはたしてこんな事実が又は事実に近い様な事があつたのかどうか編者は此邊から筆を起して先生の小傳を起したいと思う(奥村)

祝創刊
東京都王子區豊島七ノ一五
明石合金製造所

祝創刊
東京都豊島區池袋二ノ一、〇七〇
アポロ醫療器工業株式会社

◎愈々復興!! 優良製品發賣
ニクロム鐵合金、歯研スープラ鈑、線、鉤(線ハ國家試驗用)
銀合金、歯研シルブライト、鈑及鑄造用
易熔合金、歯研スーパーアロイ(銀アマルガム)ソルダーメタル
其他、歯研メロツトメタル、パーマライト
器械、歯研精製水銀、ケーサー(補創液)、ソルパー(熔媒)、器具、鉗子
大日本歯科技術研究所

Your Denture
歯科界に確認されたる材質、技術を以て
ウキプラ、スープラ
壓印床
責任者 ドクトル 大塚豊美
大日本歯科技術研究所

東京歯科大學理工學研究室御指導
アルギン分離剤
最優秀樹脂分離剤
フヂコン フヂリツト
製造元 藤化成株式会社

祝·東歯同窓會報創刊
昭和二十二年十月
(ABC順)
吉田製作所
山佐計器株式會社
田中歯科器械店
歯苑社
三殖株式會社
株式會社 佐野製作所
臨牀歯科学報社
ライオン歯磨本舗小林商店
ピヤス株式會社
日本歯科評論社
日本衛材株式會社
守屋化学工業株式會社
森田歯科商店
株式會社 森田製作所
森田歯器製作所
而至化学工業株式會社
日向重吉
藤化成株式會社
不二化学株式會社
大日本歯科技術研究所
アポロ醫療器工業株式會社
明石合金製作所

祝創刊
東京都品川區五反田一丁目一二五
日向重吉

歯科用品の
モリタ
東京店 東京都中央區銀座西三ノ三
京都店 京都市中京區麩屋町二條下ル
大阪店 大阪市南區順慶町四ノ六六
名古屋店 名古屋市中區針屋町一ノ六
小倉店 小倉市室町四丁目
工場 京都市伏見區東濱南町六八〇
京都市右京區西院今田町四五

守屋化学工業株式會社
東京都港區芝七号地SKS館内 電話芝一五九三
関東モータース
東京都大田區新井宿二ノ一五 電話大森二三〇七〇
工場 群馬縣桐生市横山町 電話桐生二五三四八

EISAI
近頃の衛材レヂン歯をおつかいになりましたでせうか?
日本衛材株式会社
東京都文京區竹早町八八
電話小石川(85)四六二五・五一五一

終戰以後 ㊦

奥村鶴吉

終戰間もない昭和廿年十月廿五日の午後、都下歯科醫学校長が「ナガオス・スクール」に集り、麗らかな秋の日を浴びながら、リジレー中佐を繞つて座談会を開いた。文部省の小関専門教育課長、高橋、眞鍋両君も列席された。その結論として大学昇格の必要を認め、「ハイジエニスト」の養成も話題に上つた。私はそれも必要だが、学校教育の内容改善が非常に急務であると述べたように覚えている。中佐から小関課長に対し「文部当局はなぜ従来歯科醫学校を大学にすることを承認しなかつたのか」と云う質問があり、之に対し課長から「自分は就任日尚浅いので其間の経過はよく分らない。将來どうするかについては、省内でよく協議してお答えする」との答があつた

それから間もなく、学校教育局長から歯科教育を大学の程度にするために、文部省では十分考慮するつもりであるとの回答があつた模様である

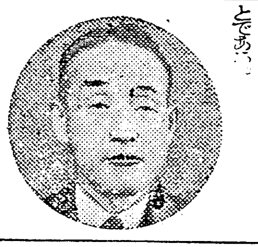
あの日は、誠に、日本に於ける歯科醫学教育に一大進展を來すべき歴史的な日であつたと考へる「若し文部省の返事がおくれる様なら、自分で其返事を聞きに行く」という中佐の力強い言葉を列席者は今でもよく記憶している事と思う

十一月九日に、中佐に三崎町の学校を廻て貰うことになつた。私は朝早く起きて、葉山から学校に來たが、間もなく八時半に「チーブ」がついた。三十分許り雑談をしていたが、其中で團体の話になつたところ、其数が双方一致しない。しまいに「沖縄はなくなつたではないか」とやられて苦笑する外はなかつたのを覚えている

九時から丁度十二時まで、三時間の間各室を見廻り、教職員にも一人一人面会されたが、其中でも解剖標本室で志村君の労を多とし、正規な専門教育を経ないで、こゝまで発達した同君の努力に感心された。忽ち「ポケツト」から「ラーレー」一個を取り出して封のまゝ同君に手渡された。誠に感激の一場面だといつてよかつた。外科標本室では、蝋模型に興味をひき数多い外來患者から得た例症の中でも放線狀菌病に目をとめ、其細菌を希望し、花澤院長の室では、其病理や材料に関する数多くの研究を見て「勤勉な人だ」と感歎の言葉を残して行かれた

十二月五日に、文部省に我々が集つた時に、専門課長から歯科醫学校に於て昇格を願出られる場合には、十分好意を以て之を処理すべき旨の話があつた。それから間もない時に、私は課長から「文部省は先ず範を示すために官立歯科醫専を昇格させるつもりだ」との話を受けた。これでいよ／＼本格的な話になつたのである

翌六日は同窓会の総会で、十一時から中佐の講演があつた。之が日本に於ける第一聲である。其前日、私は眞鍋君に会つて通譯を依頼した。其際、中佐は問答体で話をしようとの事であるからと話したら、同君はそれもよいが、先づ全体に就て演説をして、それから一問一答式にやる方がよかろうと云う話なので、それに越した事はないといつて置いた。處が同君はすぐ中佐を訪ねて此事を話し、承諾を得たそうである。演説の原稿は、其夜にかけて作られたとのことである。



中佐の話は、歯科醫療の発達は教育家、臨牀家、製造家の各々が其心構を改めなければならないという点を強調し、それまでに中佐が実際に見た状況から、日本に於ける現状は即刻改革の必要を認めると断言し、実例や数字を挙げて所見をのべられた。それから質問も出て十二時きつかり終了した。

当日はお天氣もよく、終戰後何混乱の間ではあつたが、会員も多数に集り、所謂立錐の余地なき程の盛況で、中佐も「よい聴衆であつた。」といつて至極満足された模様である。

その以後、校内は昇格問題を中心に、嵐の様に議論が起つた。今からみれば、いやでも應でも大学建設に進む以外はないのであるが、当時は専門学校のまゝで居てもなんの差支えはないのであるから、余程の決心でなければ昇格決行に乗出すことが出來なかつたのである。

併し大勢は日を追つて「イエース」の方に向つていた。人事上、経済上少なからぬ困難を覚悟の上でやろうではないかという聲が、壓倒的になつて來た。

十二月二十四日に、血脇先生の家で理事会が開かれ、全員出席、昇格問題を協議した。そこへ偶然大井君が先生の療治のために來て、自然会議の席に加わることになつた。若年層（？）の意見を聴くには都合がよかつたともいえよう。血脇理事長は、いつもの手堅い方針から、将來の困難を豫想して容易にウンとは言わなかつたが、木下理事は強く積極説を主張し、討議数刻、遂に実行に向つて調査を進めることに決した次第である。それで、一同何んとなくホツトした氣持になつて夕刻散会した。

一月二十五日午後、財團評議員会が開かれ、同窓会役員、教職員團も参加、大評定が始つた。此時分にはどの方面にも、きまつた肚が出來ていたので満場一致、大学設立を可決、建学の方針を定め、直ちに準備委員会を設けることにきまつた。

其の朝、私はリジレー中佐を訪ねて、其日の会合の目的を話したところ、それはよかろうが唯一つ希望するところは、「醫科と歯科を重ねない事である。即ち四ケ年連続した歯科教育を行う方針を逸脱しないようにして貰いたい。」と注意された。其事は右の評議の席上にも披露した。

二月十三日に、第一回準備委員総会が開かれ、理事長から花澤教授を委員長に、他にそれ／＼係りを委嘱された。又全國に亘り多数の準備委員が設けられた。処が玆に困つた事が起つたというのは、例の封鎖である。それは資金募集の大障害になることは明かなのでこれをどうしようかと心配されるに至つた。そこで右の席上に於て前月の鋭氣も大分ホコ先を折られて、尻込みの氣配も見えて來た。私などもその一人であつた。ところが、强氣の急先鋒として山田仲次郎君が策を打つて大聲叱呼、「これ許りのことでヒルムとは何事かや。僕は一人でもやつて見せる。」と云い出したので、一同元氣をとりもどして、若い諸君はすぐに出発、全國遊説の途に上り、月内に約百萬円の資金が集められた。

そこですぐ問題となるのは、豫科の校舎であるが、数ケ所の候補家屋を見て歩いた結果、結局、市川の「パイプ」会社所有四棟九百三十坪にきめ、値段の交渉に移つた。初めは七、八十萬円のつもりでいたが、会社内では百六十萬円説が多くなり、遂に壹百萬円に落ちついた。此交渉には近所に居住する岡田滴君を煩すことが多かつた。此家屋の中、元商工学校として用いられた一棟は殆ど改修を要せざる程のものであつたが、他の家屋は相当の修理改造を必要とするのである。然し一般市價に比すれば、是等の家屋は相当格安である。其上かなり氣概な契約に應じて呉れた同社に対し、深く御禮申さねばならぬのである。

それに就ても思い出すのは、三崎町の校舎のことである。現在財團の資産目録は、其入手当時の價格を其儘に記載してあるが、新館は昭和四年に建築、延坪二千二百八坪、建築費六十二萬五千円、舊館及び附属建物は大概大正十一年の建築、延坪三百十五坪、建築費八萬三千円である。即ち合計二千五百二十三坪、全部鉄筋で七十萬八千円である。ところが今度の市川校舎は木造で百萬円、坪当り一千一百八十三円に当る。物價は相当高くなつたという事が思はれる。若し三崎町校舎が焼けていたらどうだろうか。大学昇格などは容易に実現しないのである。

戰時、空襲が三崎町一帯に対して最もはげしく來たのは、四月十三日から十四日にかけた夜間であつた。周圍が皆焼けたに拘らず、本校だけが残つた。幸にして戰災を免れたのは木造校舎を豫め撤去した事、其材料で本館の防禦工事を行つた事、西側「ラツカー」室二階建建物が自ら防火壁になつた事などは、何れも有力な原因として挙げられる。

然しそれと同時に、当夜宿直の左記諸君の奮闘がなかつたならば被害を免れなかつたであろうと思われる。就中、坪井君が率先指揮をとり、校内の「ホース」を動員し、通りがかりの消防「ポンプ」の應援を得て、数時間の努力で漸く安全なるを得たのである。

光永、木村、坪井、佐藤、木村（器械係）都香、佐藤（以上守衛）石原、渡邊、永井、笹本、牧（以上学生）宇佐美姉妹（看護婦）それに河村助手がかけつけた。

其次には、五月二十五日の夜に又々あの邊一帯に空襲が來た。此際は前の時ほど激しくはなかつたが、矢張り宿直諸君の盡力に依り助かつた次第である。

保存臨牀のあゆみ（その一）

教授醫学博士　關根永滋

昨年來アメリカの雑誌に現われた論文の中、面白いと思つたものを二、三御紹介すると共に、併せてこれに対する私の考え及び母校保存部臨牀に於いてこれに関聯して目下行われている研究について述べて見たいと思う。

戰前は外國雑誌も極めて簡單に手に入つたが、現在では進駐軍の厚意により僅かにアメリカの極く少数の歯科雑誌に目を通し得るに過ぎない状態である。そこで今その一部をこゝに簡單に話し、地方におられ、直接外國文献に目を通し得ない同窓各位に、アメリカに於ける保存臨牀のあゆみを識る一助ともしていたゞくことが出來るならば幸甚である。

一、「シリケートセメント」の歯髄に対する刺戟作用とこれに対する處置。

本材充塡後、その刺戟により往往にして歯髄に色々な病變即ち充血、出血、變性、化膿、壊死、壊疽等を惹起することは昔から認められた事実であり、これに関する研究も相当多数にのぼつている。極く最近に於いても私の最も敬愛する先輩正木博士が矢張りこの問題を論じておられる。アメリカに於いても同様にZander 及Pelko氏が人間及び犬の歯牙を用いて実施したこれに関する臨牀病理的研究を The Journal of the American Dental Association, Oct. 15, 1946 及び Aug. 15, 1947, に発表している。

以下これに就いて特に臨牀的に関係の深い事項を選び紹介と批判とを試みて見たいと思う。ところでZander氏等は先づ最初「シリケート・セメント」を人の歯牙に充塡しその結果本材が歯髄に対し刺戟作用を有することを確認し更にこれを防止する目的で極く最近アメリカで入手し得た市販の裏装剤四種類を應用しその効果を調査したのである。その結果今日われわれが入手し得る如何なる裏装剤を以つてしても、「シリケートセメント」の歯髄に対する為害作用は或る程度これを減弱せしめ得ても完全に遮断することは出來ないことを明かにした。その理由は試験管実験の成績から見て、裏装剤は何れも滲透壓によつて酸を通過せしめる半透膜なるが故であり、この意味に於いて、現在よりもつと優れた裏装剤が発見されない限り「シリケートセメント」を恢復材料として眞に安心して使うことは出來ないと云つている。そこで氏等はその研究を基礎としてシリケートセメント充塡に際して次の點を考慮すべしと讀者の注意を喚起している。それによれば先づ第一に注意すべきは患者の年齢である。一般に患者の年齢によつて歯髄の状態は可成り異るもので、若年者にあつては歯髄は頗る容積に富み、その周圍を取り巻いている象牙質も主として原成象牙質から成り、窩底部から経過する歯細管も直接歯髄の表面に到達し従つて象牙質を介して傳わる刺戟も大であると考えられる。これに反して高年者に於いては年齢的變化として髄腔内、殊に壁の部分に不正象牙質その他の硬組織の添加が見られ、その結果として歯細管の走行並に形、数等が複雑となりこれによつて歯髄に対する刺戟が可成りに緩和されるとの著者等の考えに対しては私も亦同感である。著者等はこれについて、電氣診断器を應用して検査した実験成績を表示しているが、それによると矢張り年少者程「シリケートセメント」により歯髄の障碍を蒙つている。以上からして、本充塡を施す場合には先づ患者の年齢について充分の考慮を拂うべきで、この點は臨牀家の常に注意すべき所である。

次に充塡物の大きさであるが、充塡物が大きく窩底と歯髄との距離が小さい場合と、その反対に充塡物が小さく窩底と歯髄との距離が大きい場合とでは歯髄に対する影響に相違のあることは想像に難くない。この点についても著者等は実験成績を表示し、充塡物が大なる程実際に歯髄に対する危険も大であることを立證している。從つて本充塡に際しては常に窩洞の大きさを、必要の最小限度にとゞめるように留意することが肝要である。更に又充塡後の時日の経過と歯髄の状態との関係をも臨牀上は充分注意すべきである。著者等の実驗の結果によれば、本充塡の歯髄に対する影響は充塡後三ケ月以内に於いて最も大であつて、その後時日を経過するにつれ次第に小となることが確認された。從つて本充塡を施した際には最初の約三ケ月間位を特に患歯に注意することが肝要であつて、この間にさしたる異常がなければその後は次第に充塡後の成績に対する懸念が解消し三年以上経過しても異常を示さないものは完全に充塡に成功したものと見なして差支えないとのことである。この様に「シリケートセメント」充塡の成否を確めるには、どうしても電氣診断器が必要である。本器はその他に於いても保存臨牀上用途が廣いし、そう大して高價なものでもないのであるから、臨牀家としては是非共これを用意することが望ましい

尙以上の外興味ある点は、齲蝕歯と健全歯との本充塡に対する成績の差違であつて、氏等によれば実際臨牀に於いては健全歯に本充塡を施こす場合は殆んどなく、常に齲蝕その他の缺損を有する歯牙にこれが應用される。然るに斯様な缺損を有する歯牙に於いてはそれが慢性に経過したものであればある程その結果として缺損に相当する髄壁に補綴象牙質が形成される公算が大きい。そしてこの種の象牙質は外界からの刺戟を遮断するに役立ち、從つて本充塡後の歯髄に対する刺戟をもある程度阻止することは疑いない。日常臨牀に於いては、健全歯に対する実験的研究に於ける如く、多数の失敗例を見ない原因も恐らくはこの邊にあるのではないかと云つているが、この点に関しても亦私は同じ考えを持つている、そこで著者等は、本材の歯髄に対する刺戟を防ぐには何うしたらばよいかと云う問題を解決する方法として、酸化亞鉛「ユージノールセメント」を裏装剤として應用することを最も推奨し、若し窩洞が淺くてこれを應用し得ない場合には、一時「シリケートセメント」充塡を見合わせ、燐酸亞鉛「セメント」で充塡し、そのまゝ半年間位放置し、その結果として窩底部に相当する髄腔壁に第二象牙質が添加されるのを待つて、然る後に「シリケートセメント」充塡を行うがよいと云つている、併し乍ら私の考えでは酸化亞鉛「ユージノールセメント」の作用は、主として酸化亞鉛の器械的保護作用と「ユージノール」の消毒性と、或いは起り得べき象牙質を介しての歯髄に対する刺戟作用に基くものと思われる。從つてその間にこれが歯髄の象牙質形成能力を鼓舞するために著しく積極的に働くものとは考えられない。この意味に於いて私は若し以上の様な裏装が可能な場合には、寧ろ花澤博士処方の「パラホルムセメント」を應用することを提唱するものである

又若しも燐酸亞鉛セメントだけを充塡する場合でも、私は矢張り「パラホルム・セメント」で裏装してから燐酸亞鉛セメント充塡を施すことを推奨するものである。本剤が象牙質を介して歯髄をして象牙質形成能力を積極的に促進しその結果窩底に相当する髄腔壁に補綴象牙質の添加を來さしめることは、既に実験的に證明済みでもある。裏装剤に関しては私は生物学的な方法を採用することを妥当なりと主張するものである。

以上の如く「シリケート・セメント」は未だ缺点を有するにも拘らず、日常臨牀における應用價値は極めて大であつて、われわれは日常の診療からこれを完全に放棄し去ることが出來ない。それ故臨牀にたずさわる者は以上の諸点に留意しつゝ本材を有効に活用することが肝要であると思う。それと同時に今後更に研究改良を加えることによつて優秀なる材品の出現する日を鶴首するものである。「シルケート」充塡時における裏装問題に就ては、われわれの保存学教室でも私と共に瀬谷醫助手が人間の歯牙に「パラホルム・セメント」その他を用いて目下臨牀病理的実験を遂行中なので、不日その成績を発表出來ると思う。

二、「アクリ、ツクレジン・インレー」の應用價値に就いて。

「アクリ、ツクレジン」は從來殆んど義歯補綴材料としてのみ應用されて來たが、近年本材は恢復歯科学の総ゆる分野に廣い應用の途を見出し、其一つの現われとして充塡材料としても亦保存臨牀に於いて使用されるようになつた。本問題について Tylmann氏が The Jo rurnl or the American dental association 1946. Oct. 1 誌上に掲げた論文は、非常に参考になるので、これに就いて以下その概要を紹介することにする

「アクリ、ツクレジン」インレーは殊に前歯に対して適当であるが、今適應症の順序に各級窩洞の名称を挙げれば、次の如くである即ち

（1）第五級窩洞　唇頬舌面等の歯頸½窩洞

（2）第三級窩洞　切歯及び犬歯隣接面に起り且つ切端隅角の恢復を要しないもの

（3）第四級窩洞　切歯及犬歯の隣接面に起り且つ切端隅角の恢復を要するもの

（4）第一級窩洞　小窩、裂溝を含み小臼歯及犬歯の咬合面に普通見出されるもの

（5）第二級窩洞　小臼歯、大臼歯の隣接面と遠縁隆線並びに咬合面を含むもの

そして以上の中最適應症は（1）及（2）の場合であつて（5）は最も不適当とされている。その理由は（1）及（2）の場合では充塡物をシッカリと窩洞内に保持せしめることが出來るが（3）乃至（5）の場合には本材の流動性により稍もすれば充塡物の脱落を來さしめ易いからとのことである。尙本材による充塡に当り好成績を収めるための要件としては、先づ第一に「インレー」体に出來るだけ大きい容積をもたせることが必要であつて、假令窩底と歯髄との距離が普通の金屬「インレー」の場合に比し短かくても、本剤は熱に対する不良導体である故、成る程度歯髄に対する刺戟を減弱せしめることが出來る。又保持力を擴大するために鳩尾形を作る場合には、峡部を余り狭くし過ぎないように注意すべきで、そうしないと往々咀嚼壓によつてこの部分が引き伸ばされて了うからである。本充塡に際しては、窩洞を箱形に形成すれば充分な保持力を現わすと云われている。それと同時に窩縁斜面を作ることは絶対に禁物で、その理由は本材が縁端強度に乏しいからである。

その他本材を直接充塡に應用しているものもあるが Tylmann氏によれば本材の物理的性質からして時期未だ尚早しとしこれの應用を躊躇している。併し乍ら本問題に就いては今春來わが教室の関口助手が鋭意研究を進め最近迄ある程度所期の目的に合致した成績を得つゝあるので、近くその詳細を発表し得ると思う。

以上の外本材は焼陶材歯冠、継続歯、架工歯等にも應用されそれらに就いても Tylmann氏は所見を述べている。以下本材による恢復の長所並に缺点を挙げるに止めたいと思う。

利点　（1）極めて審美的で天然歯とよく調和する。（2）調製に要する時間が概して短かくて済む。（3）調製費が安價である。（4）口腔組織を殆んど障碍しない。（5）細菌不透過性である。（6）比較的耐久性に富む。（7）衝撃に対して比較的抵抗が強く、陶材に比して破折し難い。（8）重量が軽い。（9）研磨が容易である。

缺点　（1）調製不適当な場合には多孔性となる。（2）流動性を有するため變形し易く、接觸点を失うことがある。（3）往往口腔内で變色する。（4）容易に伸びる。

以上の如く、本剤は多数の利点を有するが、未だ相当な缺点をも有している。併し歯科界に應用され始めて日尚浅く、目下研究時代にあるものであつて、今後の研究と改造とによつて、不日完全に目的を達し得るものが得られるのではないかと思う。それと同時に、われ／＼は本材の長所、缺点を常に念頭に置き、可及的巧妙にこれを利用して行かねばならない。

当教室に於いても、本材「インレー」装置時に、稍もすれば、認められる充塡物と歯面との間の「セメントライン」を除くために安井助手が研究を續行中である。

弗素

齲蝕豫防の新局面ひらく

斑狀歯が地方病的に現われ、その原因が飲料水中に含まれる弗素によると云う事は大分古い話である。一種の發育不全である此斑狀歯が齲蝕に却つて罹り難いと云う事から、弗素と齲蝕の罹患性とに其研究の中心が向けられた。

戰爭中封鎖された各國の研究が終戰と共に蓋開けされ、弗素と齲蝕の問題も亦始めて明るみに出された。戰前單なる研究としての弗素問題は、既に米國に於て其の実際應用に迄進められていた。

弗素の齲蝕豫防機轉は、現在では寧ろ其局所性に期待がかけられ飲料水中の弗素も亦飲用時口腔を通過する際に起る局所的作用に重点が置かれている。弗素が或る形に於て歯牙表面に接觸した場合、歯牙実質と置換乃至交換作用により、以前より酸に溶け難い形のもの、例えば弗化カルシユームの如きものに變り、此により、歯牙を齲蝕に対し抵抗の強いものにする。又一方弗素は酸素の作用を減ずる。即ち弗素は齲蝕の直接原因たる酸産生を減じ、又一方歯牙自體の酸に対する抵抗を高めることにより、齲蝕を豫防することになる。

現在実際的應用としては、水道水中に斑狀歯を起さない最大限度の弗素量、例へば百萬分の一部の弗素を含有せしめる事で、これは既に米國に於ては約八地區に於て実施され、大規模に研究されている。次に比較的濃厚な、例へば四％乃至〇・一％位の弗素溶液を、萌出後間もない歯牙に塗布する方法で、既に五ケ年間の臨床実験成績も発表せられ、約四〇％位齲蝕を減少し得ることが報告されている

研磨剤、歯磨等の應用も行はれている。此等実際應用は、使用法、弗素の種類或は濃度、溶剤、其他により効果を異にするもので現在各方面から研究が進められつゝある

從來は營養と細菌より齲蝕を豫防せんとしたが、弗素は更に肉迫して、歯牙表面の抵抗増加と酸産生の抑制とにより予防せんとする新しい、積極的な狙ひがある其の効果は大いに期待出來るものである（野口）

歯科用薬品

母校附属病院で使用中の製剤について（その二）

母校附属病院で頻用している本校製剤について、簡單に説明致しましょう。

会員諸君の中で、これら製剤が入手困難でお困りの方は支部長まで御申出下さい。少量でしたら、御頒ちしたいと思つています。

（1）トリオヂンクパスタ

處方

液	トリクレンソール	四〇・〇
	カリ石鹸	四〇・〇
	グリセリン	二〇・〇
粉末	亞鉛華	八二・〇
	無水硫酸亞鉛	五・〇
	パラホルム	一〇・〇
	チモール	三・〇

用途　失活歯髄切断の場合の歯髄乾屍剤及び根管充塡剤として用いる

用法　いずれの場合も、パテ狀、指先でまるめてねばつかない程度の硬さに煉和する。

失活歯髄切断を行うには、豫め歯髄失活剤を歯髄に作用させてから冠部歯髄を除去した後、煉和したパスタを根部歯髄の上に置きすぐ燐酸亞鉛セメントで裏装する。パスタを平らに置くにはアルコールを浸して軽くしぼつた綿球で静かに加壓するとよいパスタの量は髄室の三分の一乃至二分の一を充たす位とする。根管充塡剤としては、抜髄根管でも感染根管でも、どちらに應用してもよい。

充塡前に煉盤の上で豫め細い円錐狀にしておき、ピンセットで根管内に挿入し、それから根管充塡器でおしこむと具合がよい

（2）パラホルムセメント

處方

液	塩化亞鉛	一四、〇
	アラビヤゴム	一〇、〇
	蒸溜水	七六、〇
粉末	パラホルム	一、〇
	亞鉛華	九九、〇

用途　間接歯髄覆罩剤として第二象牙質の形成を促進させるため、用いる。

用法　液と粉末を、適宜ぼろ／＼にならない程度に煉和する。窩洞を乾燥し、パスタを窩底に薄く敷き、すぐ燐酸亞鉛セメントで裏装する。窩底が歯髄腔に非常に近接している場合には、この粉末に二倍乃至四倍量の亞鉛華を加えて使用するか、或はまず亞鉛華または燐酸亞鉛セメントの粉末を、パラホルムセメントの液で煉合したものを窩底に薄く敷き、その上にパラホルムセメントを置き、更に燐酸亞鉛セメントで裏装するとよい。かようにすると、パラホルムの作用によつて、髄腔内に比較的迅速に第二象牙質が形成されるので患者は充塡後に知覺過敏を起すことが少ない。

（3）アンチホルミン

三％の次亞塩素酸ソーダ及び三％の苛性ソーダを含む

用途　感染根管の清掃剤、窩洞の清掃剤として用いる

用法　感染根管の治療に際し、これを注入器などにとり髄室根管の中に注加し、探針抜髄針、リーマー類を用いて洗滌法を行う

アンチホルミンは、次亞塩素酸ソーダによる強い消毒力、クロルによる漂白作用のほかに、苛性ソーダによつて有機質、即ち組織片、血液、腐敗物質、細菌などを容易に溶解する特性がある

これが根管清掃剤として優秀な点である

（4）水酸化カルシウム

用途　パスタとして根管充塡及び直接歯髄覆罩並びに生活歯髄切断に用いる。また水溶液として抜髄後の根管の洗滌或は歯槽膿漏治療の場合に歯齦囊の洗滌に用いる。

用法　根管充塡剤としては、抜髄根管でも感染根管でも、どちらに應用してもよい。滅菌水、滅菌生理食塩水、或はリンゲル氏液のいずれかで煉和する。その稠度は適宜でよい。比較的硬く煉和したのを根管に充塡してもよいし、或は稀薄に煉和してこれを根管内に入れ水分を吸收させるために假にペーパーポイントか綿纖維を挿入してセメント假封のまゝ一両日放置し、次回にペーパーポイントなどを除去し、更に硬く煉和したパスタを追加してもよい。

直接歯髄覆罩並びに生活歯髄切断には、比較的硬く煉和したものを應用する。覆罩の場合は露出歯髄面に、また切断の場合は根管歯髄の上に、壓を加えないようにしずかにパスタを置き、すぐ燐酸亞鉛セメントで裏装する。

洗滌用としては、まず飽和溶液を作り、これを水で四、五倍に稀釈したものを用いる。

注意　水酸化カルシウムは空氣に觸れると炭酸を吸收して炭酸カルシウムに變化するから、常に密栓して貯えるようにしなければならない。

随想

哈爾濱への郷愁

高木圭二郎

ドアを開けて外へ出ると、肌がきりゝとする様な心憎いまでの空氣の感觸である。オーバーのポケツトに両手をつゝこんで石疊の上を革靴の踵がコツ／＼と乾いた空氣の中をきれいな音を立てゝ響く。まだ黄葉もせずに霜がれて落ちた楡の木の葉がさら／＼と微かな音を立てゝ足もとを走る。

ふと見上げた空は、コバルト色にあくまでも澄み、カトリツクの寺院のルーフにふり注ぐ日の光はくつきりと陰影を浮び上らせる。これが北満の哈爾濱の山の手の十月である。

楡の花が咲き、迎春花が春を知らせ、杏の花がのどけく美しく、ライラツクが高い香りを風にたゞよはせ、若葉が燃える様に一齊に芽をふき出す北満の春は躍動する生命の喜びを一入感じさせる。松花江の氷が解け、露人たちは復活祭を迎える準備に街は活氣づく。

併し私は、矢張り哈爾濱を憶う時、碧く澄んだ空の下を、青いまゝにちゞれ落ちた楡の木の葉がさらさらと微かな音を立てゝ走る爽やかな而も鮮烈な北満の十月の空氣の感觸を思い出す。

それと同時に、哈爾濱で別れて來た幾人かの友達たちの誰彼の顔を次々と思い浮べるのである。

それは、もう、北満には秋がひそやかに足音を忍ばせながら訪れていた去年の八月の末である、愈々哈爾濱引揚の決つた八月末である。哈爾浜引揚開始を聞くより早く計畫して呉れた折角の送別の宴に出る暇を持たぬ私のために、幾人かの卒業生が嚴重に防壁をした薄暗い私の小さな部屋に集り、さゝやかな茶菓で敗れたりとは云へ懐しい母國へ歸る私達を祝福して呉れた。そして、何時の日か、全き平和の巡り來つた時必ず私を訪れると約束した

満洲の新らしい歯科醫師たちは日本の歯科醫学に限りない希望を抱いている、日本の敗戰後も、私達は、戰の勝負を離れ、歯科醫学を通じ終始一貫した全く變らない交友と続けた。道を同じうするもの、理解は、常に深く濃やかなものであつた

嘗て日本に遊んだ事のある張君は、海とは遮断された中共地區の哈爾浜では、当時最早入手出來ない宝の様な乾燥海扇を持參して、我々夫婦の哈爾濱最後の一時を、或科亭に招じ、目を輝して日本で又逢へる日の來るのを待つと約束した

露人の卒業生は、きつとウオツカを携えて行きますから一緒に飲みましょうとも云つた。そして誰も彼も、日本の歯科醫学への期待と希望とを語るのであつた

それからもう一年、再び哈爾濱には素晴しい秋が訪れていよう内戰の渦中に、歯科醫学への情熱を尙捨てずにいて呉れているであらうか。彼等への思いはつきない。哈爾濱の秋を思い、哈爾濱の友達たちを思うとき、私は淡い郷愁をさえ感じる

ウオツカのグラスを手に彼等と歯科醫学を語る日は何時であろうか

その日までに、彼等の前に躊躇することなく示し得る日本の歯科醫学を、文化國家として再出発した日本の歯科醫学を建設すべき責任を私たちは身にしみて感じるのである。（前哈爾濱醫大歯科醫学部勤務）（二二・九・二八）

引揚同窓名簿（其一）

満洲之部

樺山正男（奉天）鎌倉市鎌倉山旭丘、猪俣賢之助（奉天）福島縣、野村孝（奉天）東京都世田谷區若林町五二三、松崎那夫（奉天）宇治山田市大港町九七八

茶山信吉（新京）富山縣氷見郡氷見町加納、江部易麿（新京）新潟縣南蒲原郡下條村、松崎强（新京）東京都京橋區月島通二ノ四、下田方、奥村元武（新京）佐賀縣山代町浦崎病院内、重浦阜一（新京）東京都杉並區阿佐ケ谷一ノ六八〇、高木綾久雄（新京）岐阜縣加茂郡西白川村和泉、山崎錦司（新京）東京都南多摩郡町田町原町田二三四、渡辺兼良（新京）川崎市池上新田一七六池上方、飯島皓（哈爾浜）東京都板橋區上板橋七ノ四六四六、石井安治（哈爾浜）千葉縣長生郡一ノ宮町一ノ宮学園内、宮下安利（哈爾浜）奮姓安利剛、東京都千代田區神田神保町二ノ一九

武藤十郎（北安）埼玉縣北埼玉郡羽生村埼田方、大橋正三（哈爾濱）福島縣、小畑晃作（哈爾濱）極樂寺一、〇三九、田中正業（哈爾濱）新潟縣西蒲原郡漆山村字河井、宮城繁義（安東）神奈川縣大磯町大磯一六九二、永井銀三郎（齊々哈爾）東京都中央區湊町二ノ一〇、押見宏（齊々哈爾）柏崎市本町八丁目、渡辺正信（齊々哈爾）福島縣安達郡太平村、鎗田勇（齊々哈爾）靜岡縣濱名郡新居町新居一、二七八、川北義德（吉林）島根縣、鈴木基一（吉林）栃木縣川西町

葦澄悠（遼陽）長野縣東筑摩郡疏精村八、二四九、稲葉忠亮（撫順）靜岡縣伊東町松原伊勢町二四二、金子博（鞍山）横浜市戸塚區戸塚町五一一八、中西次生（鞍山）尼ケ崎市次屋字松本一〇五田中方、石塚保（牡丹江）東京都新宿區内藤町一、平井虎二（安東）宇和島市廣小路黒田眼科内、堀内茂（安東）甲府市東光寺三葉莊内、堀内鎮男（安東）前同、眞田誠（安東）千葉縣安房郡南三原村海発、下田俊明（通化）大阪市生野區今里町六ノ三七

中村七郎（六道溝）千葉縣安房郡南三原村海発眞田方、名取良一郎（六道溝）長崎縣壹岐郡箱崎村瀬戸、村田方

小早川武夫（東安）長野市、能勢要（東安）東京都文京區根津清水町一、祓川福逸（本溪湖）靜岡縣田方郡伊藤町岡區濃野四六五若林方

西脇一之（本溪湖）東京都中野區野方町一の七五一

桐原正元（阜新）靜岡市八幡大坪二五九小河方、酒井鑿（林口）大田區田園調布二の八三六細川方、古川勝（梅河口）諫早市栄田町一五二

岡村金次（大石橋）千葉縣香取郡久賀村次浦一、八五三

荒井昇（海城）金澤市長町五番丁四五

○歸國してゐるも居所不明のもの

葛西貞幹（新京）渡邊榮（哈爾濱）松尾克巳（敦化）鈴木哲（牡丹江）逸見稷（東安）

○留用（徵用）中のもの

堀江淺安（奉天）瀋陽中京鉄路醫院

布川武夫（奉天）渡邊保（新京）長春大学村上敏（新京）福島秀策（哈爾濱）安東猛（齊々哈爾）中村讓兵衞（鞍）工藤守那（佳木斯）瀋陽航空隊病院附

○シベリア抑留中

弘山秀直（哈爾濱）大村光晴（齊々哈爾）

○消息不明会員

竹波千代（奉天）、大森佐重（奉天）、倉田瑕（奉天）、末岡精次（奉天）、百東尚彦（奉天）、高橋秀雄（鄭家屯）、田中正衞（新京）、川西勝政（新京）堀田六助（新京）、古知新八（新京）、築館忠夫（新京）、谷口翠（哈爾濱）五十子嘉平（齊々哈爾）修良（齊々哈爾）、池田稔（遼陽）、阪下手治（撫順）、副島侃二（撫順）難波重臣（鞍山）白田虎次（牡丹江）、畠中繁藏（牡丹江）、揚靖也（牡丹江）、難波清康（安東）高橋信君（四平街）、高橋尹（開魯）小野寺秀夫（開魯）、酒井龍太郎（佳木斯）、阿部鋭夫（佳木斯）、福田猛（琿春）七屋太郎（臨江）、浅野清一（錦州）田邊和三郎（蘇家屯）堅山政藏（蘇家屯）、長谷川敏郎（承德）、野口富樹（北安）、小宮孝（西安）、中村竹三（綏陽）、今西喜一（營口）、高橋幹夫（寶東）、淸水玄熊（通遼）、四道為人（公主嶺）衣松衣（安東）

○逝去会員

大熊重彦（哈爾浜）、長岡寛（撫順）、矢島鋼二（承德）

關東州之部

久保田謙次郎（大連）別府市雲雀丘七、大津晴弘（大連）別府市上田ノ湯、和田政次郎（大連）別府市龜川天神町、濱田豊義（大連）宮崎市東二番町一ノ一、中島秀造（大連）名古屋市千種區觀月町一ノ二加藤方、萩原貞雄（大連）山口縣佐波郡小野村奈美善門寺内、西山二三雄（大連）小田原市萬年四丁目

○歸國してゐるも居所不明のもの

脇恒彦（大連）日下健（大連）米田定一（大連）

○消息不明会員

坂東才作、巨仁田朝一、大塚冬雄、大島新治、小室新次郎、田中靜夫、田中東興、日下阜四郎、南高、川越久雄、堀内泉、坂元一夫、鹿野紅葉、日野義一郎、阪上正治、種子田健一、吉田武、脇屋和夫、脇屋義夫、山口保、熊谷龍雄、川越巳之助（以上大連）仲野喜代作、竹内正吾、北岡知一、小梨昌、谷口兼雄（以上旅順）

外地より引揚同窓の消息は、号を追つて掲載し、出來るだけ蒐集に努めたい。

今尚、消息不明の会員は相当多い。御連絡を切望する。

血脇家墓地玉垣建造計畫進む

歯科醫師會の醵出金による

血脇先生葬儀の砌、各都道府縣歯科醫師会は、弔意を表して日本歯科醫師会を経て、東京歯科大学に葬儀費用の一部にと送金されたもの総計金四萬貳千壹百六拾円六拾錢也に上つた。

第五三回財團評議員会に於ては理事の提案を承認し、之を以て玉垣を建造することになつた。本年十二月には落成する豫定である。

尙玉垣の柱には「日本歯科醫師会、都道府縣歯科醫師会建造」の旨が刻まれるとの事である。墓地は八柱靈園にあり、常盤線松戸駅から「バス」の便がある。

大學建設審議委員会の發足

八月廿五日の本大学財團評議員会に於て、建設要綱の実施に必要な事項を審議すべき委員会を設くべきことが決定され、其規定に従い左の委員が委嘱された。

理事長　奥村鶴吉、理事　花澤鼎、同　大村一男、同　濟野規矩雄

評議員　榎本美彦、同　萩原村次、同　鹿島俊雄、同　若葉清次、同　渡邊昌夫、同　横須賀權次郎

幹事　三崎鉎郎、大井清、佐藤憲三

第一回委員会は、九月四日午後二時、市川市豫科校舎に於て開会、建設の順序、経費豫算書等を審議決定し、尙現場を視察、四時散会した。

同窓會員諸君に御願い

一、昭和二十一年分（本年十月までの分）会費は金貳拾円です。支部長を経て御納入願います。

一、会報を会費未納の方にも配布することは、経済上出來難くなりますから、この点十分御諒察の上、御協力下さい。

一、会報は今後年数回発行したいつもりですが、会計状態がよくならなければ発行が出來ません。

一、各地支部会や会員の近狀等御通知を願います。又会報掲載への御寄稿は何によらず歡迎します。然し紙面に限りがありますから取捨は幹事に御一任願います。

十月八日

同窓會幹事

第五拾參回同窓會總會案内

來る十一月九日（日曜）午前九時より、本会総会を左記により母校内において開催致します。萬障御繰合せ御参会下さい。

午前の部（九時開会）

一、開会挨拶　奥村会頭

一、講演（引續き正午迄）

（1）「レジンジヤケツトクラウン」の調製法に就いて　母校教授　高　達氏

（2）「チモール」と炎症性細胞の浸潤　同　松井隆弘氏

（3）本校病理学教室に於ける最近の諸業績に就いて　同　松宮誠一氏

（4）根端病變の「レントゲン」診断に関する研究　同　三崎鉎郎氏

（5）止血薬としての「アルキン」に就いて　同　長尾喜豐氏

（6）母校保存臨牀に於いて現在應用しつゝある歯髄の処置法並に製剤に就いて　同　關根永滋氏

（7）下顎智歯の発生に就いて　同　津崎孝道氏

（8）生理学と歯科治療との関聯性　同　山田守氏

（9）口腔固有の微生物について　同　米澤和一氏

午後の部（一時開会）

一、総会

（1）会務報告

（2）議事

1、昭和二十二年度豫算案

2、会則第三十三條改正（会費値上）の件

二、総会終了後直ちに示説に移る。

理工学教室示説

歯科理工学教室を開放し、会員の見学に供すると同時に、同教室に於いて目下継續中の諸研究を、各室に分れて次の如く行う。

（1）総括的解説（於総会場）　花澤先生

（2）簡單な「アルキン」印象材の作り方とその用法　安井哲男氏、蓮見博氏、神山敏男氏

（3）「レジン」と石膏との分離材としての「アルキン」　安井哲男氏、蓮見博氏

（4）不鉄鋼用特に鎔鉤用実用向新鎔　金竹教授・齋藤榮一氏高橋秀雄氏

（5）色々な鎔鉤用金屬とその製作品

（6）高い膨脹性を有する「インレー」用埋没材の研究　矢島忠夫氏、昭坂豊氏

（7）「インレー」窩洞の印象と簡單な金屬模型の作り方　安井哲男氏、矢島忠夫氏

（8）実用的廢用「レジン」の再生法　白包剛男氏、安井哲男氏

（9）電解研磨法　金竹教授、池田治美氏

（10）合金の作り方　金竹教授、安井哲夫氏

（11）衞生試驗所に於ける歯科材料の規格試驗　藤井正道氏・榎本正義氏

以上午後四時終了の豫定

尙当日は、各製造家並に歯科商店より器械、材料の出品展覧があり、即賣も行います。

昭和二十二年十月

東京歯科大学同窓会会頭　奥村鶴吉

（本廣告を以て、総会通知にかえます。）

歯磨は…ライオン
朝も！晩も！子供の時から
煉・潤製・粉

高津弌主宰
日本歯科評論
終戰後再刊、純正歯科醫学の指針を理念として、公正なる評論と臨牀家を対照とする学説滿載
發行部数最大にて用紙難のため新規申込謝絶中なるも母校關係紙の発刊を祝し若干部数を用意した
概算拂百円封入至急申込のこと豫定数超過の際は返金
東京都中央區森田ビル　銀座西3の3
日本歯科評論社

クレンザーは定評ある　ピヤス抜髄針を
東京都千代田區神田五軒町四五
ピヤス株式会社

祝創刊
東京都千代田區神田五軒町四五
株式会社　佐野製作所

K.K.K.
ハンドピース　コントラングル
三殖株式會社
埼玉縣與野町上落合三三三
電話大宮七六八番

祝創刊
生田信保　口腔手術学　一六〇円〒一〇円
生田信保　口腔衛生学　一八〇円〒一〇円
生田信保　歯痛　四〇円〒五円
高橋新次郎　矯正歯科学　二〇〇円〒一〇円
高橋新次郎　機能的顎矯正法　一四〇円〒一〇円
豐田実　口腔病理学　一五〇円〒一〇円
東京・板橋區上板橋　5ノ5630
歯苑社

祝創刊
東京都千代田區富士見町二ノ三
田中歯科器械店

安心して使える
山佐のコントラ
東京歯科大學御用　山佐計器株式会社製

祝創刊
東京都墨田區江東橋一ノ二
吉田製作所

皆様の雑誌!!
臨牀歯科學報
本社　東京都世田谷區松原町三ノ八〇二　振替東京一九五四五五
編輯所　東京都神田區三崎町二ノ七　東京歯科大學内